



みつまたやアバカ（マニラ麻）などといったお札の紙の原料を加工してから、更に薬品と混ぜ合わせて紙の材料（紙料）を作ります。



紙料を金網の上に流して紙の層を作り、すかしを入れて乾燥し、艶をつけて巻き取ります。



巻き取られた紙を決められた寸法に、正確に断裁します。



断裁された紙を1枚1枚検査し、ごみが入ったものなどの不良紙を取り除きます。



機械で正確に枚数を確認します。こうしてできあがった紙は、お札独特の手触りや風合いを持っています。



お札のもとになる原寸大の原図を、工芸官が色鉛筆や筆と絵の具を使って手描きします。



お札の原版（凹版）は、高度な技術と豊富な経験を持った工芸官が、鋼や銅の金属板にビュランという彫刻刀を用いて、肖像などの絵柄を直接彫刻して作ります。



1枚の原版から、転写法、樹脂成型法を用いて多面の大きな版面に合成し、電鍍法を用いてニッケル版を作り、これにクロムメッキを施し、印刷用の版面を作ります。



各種顔料、ワニス等を練り合わせ、お札を印刷するための独特な色合いのインキを製造します。



お札は、国立印刷局が開発した専用の銀行券印刷機により印刷します。この機械は、片面の地紋と凹版印刷が一度に印刷できます。初めに裏面、次に表面を印刷します。



お札（一万円券及び五千円券）の表面に、見る角度によって画像や色彩の変化を示すホログラムを貼付します。



お札の管理などのために必要な記番号と印章（日本銀行総裁印）を印刷します。



大判に印刷されたお札を、1枚1枚一定のスピード
でめくって検査します。



検査を終えた大判のお札を、決められたサイズに正確に断裁します。



断裁されたお札を機械で検査し、枚数確認、帯かけなどを行い、千枚束に仕上げます。



ポリエチレン包装をし、日本銀行に納入します。